〈資料〉

# 山辺丈夫滞英時代（1879）の英文・日本語日記[1)]

# Takeo Yamanobe's Engilsh and Japanese Diary (1879) in His Sojourn in England

井　上　琢　智

JEL：B15, B31
キーワード：山辺丈夫、伊賀陽太郎、ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン、キングス・カレッジ・ロンドン、ハム、渋沢栄一、大阪紡績会社（東洋紡）
Keywords：Takeo Yamanobe, Yotaro Iga, University College, London, Kings' College,London, J. Panton Ham, Eiichi Shibusawa, Osaka Textile Co. (Toyobo Co., Ltd.)

## I. はじめに[2)]

山辺丈夫（嘉永 4〈1851〉年 12 月 8 日〜大正 9 年 5 月 14 日）は、津和野藩藩士清水格亮の次男として津和野町に生まれた。4 歳の時、同藩士山辺善蔵の養子となった。教育を津和野藩藩校養老館で受け、国学、数学を学んだ。第 2 次長州戦争の時に遊軍隊に入隊し、明治元（1868）年には京都御所に警備のた

1) この日記帳は山辺丈夫の W.S. ジェヴォンズ受講ノートとともに、現在、東洋紡総務部社史室に保存されており、その公表については、筆記ノートと同様、同室の村上義幸氏のお世話になった。記して深く感謝申し上げます。なお、今回復刻した日記帳の他に、明治 20 年の日記帳（日本製の日記であり、英文および日本語の文章が残されている）が保存されている。今回の翻刻は、留学時代の日本人留学生の交流関係を研究する目的のために行ったものであるため、後者については、翻刻していない。

2) 山辺丈夫の以下の伝記の記述については、石川安次郎『孤山の片影－山辺丈夫』（1923〈復刻：1998、ゆまに書房〉）および井上琢智『黎明期日本の経済思想—イギリス留学生・お雇い外国人・経済学の制度化—』（日本評論社、2006、159-60 頁）にもとづいている。

めに派遣された。翌年、津和野に戻り、文学館に入学した。明治 3（1870）年には東京に出て、同郷の先輩であった福羽美静の培達義塾と西周の育英舎や中村正直の同人社で学んだが、明治 5（1872）年一時津和野に戻り、家族とともに再び東京へ移り住んだ。その後自費で横浜の宣教師バラ（J.H.Ballagh）について英語を学び、さらには 1873（明治 6）年 8 月には大阪へ行き、大阪の慶應義塾の分校で学んだ。同年 10 月から船場小学校の教員を勤めたが、翌年 4 月辞任して、8 月に東京へ戻り、西周宅に寄寓し、英書研究をする一方、育英社や慶応義塾[3] で英書を教えた。

1875（明治 8）年 9 月から旧藩主亀井茲監（これみ）の養子茲明（これあき）（1861〜1896）が育英社に入学し、山辺は茲明教育係となり、茲明に英語などを教えた。これが縁となって、亀井茲明の留学に伴い、山辺丈夫もイギリスに留学することとなった。1877（明治 10）年 8 月 15 日に横浜を出航し、同年 10 月 12 日にロンドンに着いた。

この日のことを馬場辰猪や伊賀陽太郎など日本人留学生に下宿を提供し、英語の家庭教師を務めたユニテリアの牧師ハム（J.Panton Ham, 1819-1902）は、伊賀陽太郎への書簡（1877 年 10 月 16 日付）で次のように書いた。「イギリスへ着いたばかりの二人の日本人の紳士が、今日、私たちと暮らすためにやってきました。彼らはあなたの名前を聞いて、あなたが私の生徒で同居している友人であると知っていたが、あなたが彼らのことを知っているとは思わなかった。彼らの名前は、若い大名の亀井茲明［K. Kamei］氏と山辺［T. Yamanobe］氏です。･･･ 彼らの一人はすこしだけ英語を話します」[4] と。英語を話すこと

3) 『慶應義塾史事典』慶應義塾大学出版会、2008、773 頁。また、富田正文監修・丸山信編著『福沢諭吉とその門下書誌』慶応通信、1970、145 頁（「番外 10」として在籍が確認されている）。

4) 井上琢智「イギリス留学生伊賀陽太郎宛書簡に見る日英交流（2）―イギリス人家庭教師ハムを中心に―」『経済学論究』［関西学院大学経済学部］第 61 巻第 4 号（2008 年 4 月、13-15 頁）。なお、山辺のイギリスへの到着日について、この日記帳を読んで執筆した石川はその前掲書で「11 月 12 日」（6、102 頁）としている。ただ、この日記帳冒頭では「10 月 12 日」であることを考えると、「10 月 12 日」の誤記であろう。なお、この到着日について、井上琢智前掲書（160 頁）で、「10 月 1 日」とし、上記論文では、「17 日」と誤記した（ハムの伊賀宛書簡の日付は 10 月 16 日で、その書簡本文では「今日 ･･･ 到着した」と書いているので「10 月 16 日」とすべきところを誤って「17 日」とした）。なお、留学以降の山辺の活躍については、石川安次郎前掲書、井上琢智前掲書などを参照のこと。

ができたのは、この山辺であった。

## II. 翻刻本文[5)]

From 15th August 1877 to 31st / of Decem[ber] 1878 is omitted. / T. Yamanobe / 24. Oct. 1878. Marseill[6)7)]

我々之席座中迄置候也■過般郡區 / 改正ニテ當時ニテハ南葛飾郡須崎村九 / 五番地ト亀井家番号等モ改り候也　■取 / 宿元之番号五十三番地ト改正ニ相成り候也[8)9)]

---

5) 以下の復刻については、下記の要領に従っている。
（1）〈　〉は山辺による挿入を示す。
（2）英文中の同文を示す「〃」は、［　］で同文を補足し、日本語中の「〃」は、「同」と記すのみで、日本語を補足していない。ただし、ピリオッド等は、断らずに補足した。
（3）翻刻に際して、スペルの大文字・小文字は原則原資料のままとした。また、可能な限り原文の状況を復刻しようとしたため、英文として不自然な場合がある。
（4）［　］は、翻刻が不能もしくは、推定による翻刻である。
（5）英文中のボールドの年月日等は、この日記帳で印字されたものである。
（6）翻刻日記中のスラッシュ（ / ）は改行を示すが、改行されていても、文章が続く場合にはスラッシュを除く場合がある。
（7）●は記入後、消されているために判読不能である。
（8）■は、判読不可能な語句である。

6) この日記帳の表紙には、‘DIARY / 1879’ と書かれている。

7) これら二つの英文は日記帳の裏扉に直接書かれたものである。なお、日記がこの期間省略されているのは、離日からロンドン着後生活が落ちつくまでの期間であったからである。

8) この日本文は別紙に記入され、日記帳の裏扉に添付されたものである。なお、その他、この扉には ‘Mails for Japan and China via San Francisco’ と題するおそらく新聞記事と思われる切抜きが添付されている。そこには 1879 年 10 月から 80 年 5 月までの間の発便の日付（10 月 4・25 日、11 月 15 日、12 月 6・7 日、1 月 17 日、2 月 7・28 日、3 月 20 日、4 月 10 日、5 月 1 日）が書かれており、2 月 28 日に丸印が付けられている。

9) 中扉には、‘T.J. & J.SMITH’S POCKET DIARY AND ALMANACK 1879 No. 1 PRICE ONE SHILLING. BOUND IN CLOTH’ とあり、その下に ‘TABLE OF CONTENTS’ がある。出版社については、この中扉に以下のように書かれている。‘London PUBLISHED BY T.J. & J.SMITH, SON & Co. 83 & 84, QUEEN STREET, CHEAPSIDE, AND TO BE HAD ALL BOOKSELLERS AND STATIONERS. *ENTERED AT ATATIONERS’ HALL* For List of T.J. & J. Smith’s Diaries, see last page’ と印刷されている。以下、35 頁に渡り、‘Stamp Duties’ から ‘Metropolitan Police Courts’ までが印刷されている。

誕辰嘉永四亥年十二月八日[10)]

**JANUARY, 1879**

**1st Week**

18698

171 Finborough Rd West / Brompton S.W.[11)]

明治一年 〈八月慶應四ガ / 明治一ト改ル〉[12)] 辰三〈六〉月登西京 和十八才 / 洋十六才

同巳二年 巳六〈三〉月帰工場

同午三年 午三月 登東京 此年実母養父ヲ失フ / 和廿歳 / 洋十八歳

同申五年 申 帰省伝住

同戌七年 戌 登坂 八年亥帰京

同子九(ママ)年 子 負檐亀井君之教授

同 同 同十月六日 婚 和十六才 同十七才 / ト四ケ月 / 洋廿四才 / 同 十六〈五〉才

同牛十年 牛八月十五日 横濱校鑪 和廿七才 十ケ月 / 十月十二日 龍動安着 洋廿五才 四ケ月

同寅十一年寅 龍動滞在

同卯十二年卯 洋千八百七十九年二月

同 十三年同 ― ― ― ― ― ― 月 日帰朝[13)] / イヌトモ云 和七月

1879 March 従五位君[14)]酉十九年 洋十七才八ケ月 / 嘉永 / 壬壬亥十二月八日 和廿九才洋廿七才三ケ月

10) この日本文は日記帳の欄外に書かれたものである。

11) Brompton S.W. は、ハイド・パークの南に位置する地域で、現在ではヴィクトリア・アルバート美術館等がある。また、Finborough Rd. は、Brompton Cemetery 東側に沿う道路である。この道路の西側で、墓地の南に山辺が機械工学を学ぶためにユニヴァーシティ・カレッジと一時期同時に学んだキングス・カレッジが位置する。

12) 正しくは、慶應 4 年 9 月 8 日を明治元年 10 月 23 日と改元し、一世一元の制を定めた。この年の 9 月 3 日（慶応 4 年 7 月 17 日）に天皇が江戸を東京とした（『近代日本総合年表』第三版、岩波書店、1991、36 頁）。

13) 帰朝は、明治 13 年 7 月 12 日である（石川安次郎前掲書、7 頁）。

14) この従五位君とは、亀井茲明のことである（石川安次郎前掲書、105 頁）。この頁に採録されている書簡の中で山辺は亀井のことを「五位君」と読んでいる。

— — — — 和廿才　~~洋十九才~~ / 明治十二年三月 十八年ト六ケ月
十二年九月渋澤よりノ信書落手[15] / 十二年九月一日より工場入り[16][17]

## JANUARY, 1879

### 1st Week

**Wednesday 1 (1-364)** ***Circumcision.***

M[orning] F[ine]. A[fternoon] Rain. / Morning In. / Afternoon out [to] call upon Kam / ei[18] today happy new year. / Receive a letter from japan dated 25th Nov [ember]. 1878. / Night in.

**Thursday 2 (2-363)**

M[orning]. A[fternoon]. F[ine]. / Mor[ning]. in. / After[noon]. out [to] call upon Okoshi[19] / , and walking. / Night In.

---

15) この日記では、この 1879（明治 12）年 9 月の渋沢からの書簡は確認できない。渋沢から山辺への書簡について、石川安次郎前掲書『弧山の片影』は「初めて、懇切なる手紙が、丈夫氏の所へ着いたのは 6 月 19 日で有った」（123 頁）と書いた。しかし、同書でも実父「各亮氏が 3 月 25 日附けを以て、この渋澤子から交渉に付けて報告されたる書面は、4 月 29 日に、丈夫氏の手に入つて居る」（123 頁）と書いているが、この点について、この日記の 4 月 29 日に「渋澤ヨリ書語伴アリタル」（注 45）と書いている。このように、正式な 6 月 19 日の書簡以前から、山辺は渋沢の申し出を知っていた。なお、この日記によれば、山辺は 7 月 7 日に渋沢へ書簡を送っている。「それから丈夫氏はキングス、コレーヂに転じて、機械工学の研究を始められた」。なお、当時のキングス・カレッジ・ロンドンの教育内容については、広瀬信「イギリス工業教育発展史（1）－創設期（1830 年代〜60 年代）－」（『富山大学教育学部研究論集』第 7 号、2004、1-14 頁）を参照のこと。広瀬によれば、当初山辺が所属していたユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドンでは、土木、建築学が中心であり、1874 年の A. B. ケネディ就任までは「財政状況が厳しく ··· スタッフは安定しなかった」（2 頁）のに比べて、キングス・カレッジ・ロンドンは「定員も入学試験もなく、貴重な収入源として希望者（16 歳以上）をすべて受け入れていた」だけでなく、むしろ機械工学などが中心であった」（5 頁）。

16) この日記帳によれば、工場へ最初に行ったのは、この 9 月 1 日である。

17) この日本文はおそらく後日書かれたものと思われる。その日本文は黒字で書かれたものと、赤字で書かれたものとがあるが、翻刻に際しては区別していない。

18) この Kamei は、亀井茲明である（以下、同様）。

19) この Okoshi は、大越成徳である (以下、同様)。大越は、1877 年から 80 年にかけて University College, London に山辺丈夫、伊賀陽太郎、亀井茲明らとともに在籍し、W.S. ジェヴォンズの経済学の講義に出席し、その知識をもとに『外国貿易拡張論』（1889）を出版した。その内容については、井上琢智前掲書、第 8 章を参照のこと。

**Friday 3 (3-362)**

M[orning]. A[fternoon]. N[ight]. Rain. / Mor[ning]. After[noon]. [and] Night In.

**Saturday 4 (4-361)**

All [day] / F[ine]. / Mor[ning] In. / After[noon] To Bank and Kamei. / Night To Calidonian Hotel[20] / for Annual festival.[21]

## JANUARY, 1879

## 2nd Week

**Monday 6 (6-359)** ***Epiphany.***

Mor[ning ]. Af[ternoon]. R[ain]. / Mor[ning]. In. / Afte[rnoon] out to work. / Night In.

**Tuesday 7 (7-358)**

Mor[ning] After[noon]. D[rizzle]. / Mor[ning] out to University[22] for Kamei / [ &] take to pay term. / to take my lesson / for two hours. / After[noon] In / Night In.

---

20) このカレドニアン・ホテルではしばしば日本学生会の会合がもたれた（井上琢智「日本学生会報告記録」西田長壽・萩原延壽・川崎勝・杉山伸也・井上琢智編『馬場辰猪全集』第 4 巻、岩波書店、1988、15-20 頁）。山辺によれば、1879 年前後には、隔週土曜日（第二・第四）に開催したとしている（石川安次郎前掲書、104 頁）。事実、この日記によれば、1 月 11 日（第二土曜日）・25 日（第四土曜日）、2 月 8 日（第二土曜日）・22 日（第四土曜日）、3 月 8 日（第二土曜日）・13 日（special meeting）・22 日（第四土曜日）、4 月 5 日（第一土曜日）・19 日（第四土曜日）、5 月 3 日（第一土曜日）・31 日（日本書生会）、6 月 14 日（第二土曜日）・7 月 12 日（第二土曜日）・26 日（第四土曜日）、10 月 11 日（第二土曜日）の会合に出席している（特記しない限り、meeting と書かれている）。これから見ると、工場訪問等を頻繁にするようになった 8 月以降、この会合にはほとんど出席していない。

21) この日記帳には、日曜日の欄が設けられていない。ただし、日記の最後に日曜日と祭日欄が設けられている。また、この日記帳の特徴は、1 年間（この年は 365 日）で過ぎた日数と残った日数が書かれている。

22) この university および次に書かれている College とは、University College, London のことであり、山辺は 1878 年から 79 年にかけて在籍し、すくなくとも W.S. ジェヴォンズの経済学の講義に出席し、その講義をノートにとり、それが現存している。その内容については、井上琢智前掲書、第 7 章（なお、同書で山辺のユニヴァーシティ・カレッジの在籍を 78 年から 79 年以外に、1875 年から 76 年と書いているが、誤記である〈44 頁〉）を参照のこと。

**Wednesday 8 (8-357)**

A[ll day] F[ine]. / Mor[ning] In. / After[noon] out to Kamei and College. / Evening out to Okoshi. / Night in.

**Thursday 9 (9-356)** ***Fire Insurance expires.***

F[ine] all [day]. / Mor[ning] In / After[noon] In. / Night out to take walk.

**Friday 10 (10-355)**

F[ine]. a[ll day]. / Mor[ning] In. After[noon] out to port and walk. / Night In to take lesson[23].

**Saturday 11 (11-354)** ***Hilary Law Sittings begin***

A[ll day] F[ine] / Mor[ning] In. / After[noon] out to Kamei. / Night out to meeting.

## JANUARY 1879

### 3rd Week

**Monday 13 (13-352)** ***Cambridge Lent Term begins.***

R[ain all day]. / Mor[ning] In / After[noon] In. / Night out to College.

**Tuesday 14 (14-351)** ***Oxford Lent Term begins.***

~~F~~ R[ain all day]. / Mor[ning] In. / After[noon] out to work. / Eve[ning] In to take lesson.

**Wednesday 15 (15-350)**

A[ll day]. G[loomy]. / Mor[ning] In. / After[noon] out to call upon Kamei / and to College[;] / in way I caught cold. / Night ⟨In⟩, went to Bed early[;] dur / ing night suffered heavily by / headache and fever.

**Thursday 16 (16-349)**

A[ll day]. G[loomy]. / All day and night / in Bed.

**Friday 17 (17-348)**

23) W.S. ジェヴォンズの当時の講義は、「月曜日、水曜日の 5 時から 6 時まで」行われている」（井上琢智前掲書、161 頁）。

A[ll day] G[loomy]. / Mor[ning] in[;] little better. / After[noon] in [to] take lesson. / Night In.

**Saturday 18 (18-347)**

A[ll day]. S[now] / Mor[ning] In. / After[noon] in for prudence－ / Night in.

## JANUARY, 1879

### 4th Week.

**Monday 20 (20-345)**

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning]. to Bank and / Kamei, at nine returned. / After[noon]. Out / Night

**Tuesday 21 (21-344)**

A[ll day]. G[loomy] / All day in / After[noon] / to take lesson.

**Wednesday 22 (22-343)**

A[ll day]. F[ine] / Mor[ning]. In. / After[noon] out to College and Kamei / and receive a letter from home. / Night in.

**Thursday 23 (23-342)**

A[ll day] G[loomy]. / All day In.

**Friday 24 (24-341)**

A[ll day] G[loomy]. / All day In / to take lesson.

**Saturday 25 (25-340)** ***Conversion of S. Paul.***

Morn[ing ] In. / After[noon] out to call upon Kamei and the meeting. / Night Out.

## JANUARY, 1879

### 5th Week

**Monday 27 (27-338)**

A[ll day]. G[loomy] / Mor[ning] In, write letters to home. / After[noon]

Out to College. / Night In.

**Tuesday 28 (28-337)**

A[ll day]. G[loomy]. / Mor[ning] / After[noon] / Night In to take lesson and pay tuition for Jan[uary][24].

**Wednesday 29 (29-336)**

A[ll day]. G[loomy] / Morning In. / After[noon] Out to College. / Night Out to Kamei.

**Thursday 30 (30-335)**

A[ll day]. Gl[oomy]. / All day & night / In.

**Friday 31 (31-334)**

A[ll day]. G[loomy] / All day & night / In / to take lesson.

**Saturday, FEBRUARY 1 (31-333)**

A[ll day]. G[gloomy]. / Mor[ning] / After[noon] / Out to Bank and city. In evening to Kamei. / Night.

## FEBRUARY, 1879

### 6th Week

**Monday 3 (34-331)**

A[ll day]. G[loomy] / All day at home.

**Tuesday 4 (35-330)**

All [day]. G[loomy]. / All day at home / to take lesson.

**Wednesday 5 (36-329)**

A[ll day]. R[ain]. / Mor[ning] In. Afte[rnoon] Out to College Kamei and to store. / Night Out.

**Thursday 6 (37-328)**

A[ll day]. G[loomy]. / Morning [and] After[noon] In. / Night Out to

24) 山辺らのジェヴォンズの講義への出席は、当時の *Fees Books* によって確認できている（井上琢智前掲書、145 頁）。

theatre.[25)]

**Friday 7 (38-327)**

A[ll day]. R[ain] / Mor[ning]. / After[noon] In to take lesson. / Night

**Saturday 8 (39-32)** ***Half-Quarter Day***

All [day]. F[ine]. / Mor[ning] In. / After[noon] Out to Kamei and meeting. / Night.

## FEBRUARY, 1879

### 7th Week

**Monday 10 (41-324)**

A[ll day]. R[ain]. / Mor[ning] In. / After[noon] out to College. / Night

**Tuesday 11 (42-323)**

A[ll day]. R[ain]. / All [day] In / to take lesson.

**Wednesday 12 (43-322)**

A[ll day]. G[gloomy]. / Mor[ning] In. / After[noon] Out to College and / Kamei. / Night In.

**Thursday 13 (44-321)**

A[ll day]. G[loomy]. / All [day] In.

**Friday 14 (45-320)**

A[ll day]. W[indy]. / Mor[ning] / After[noon] / Night / All [day] In to take lesson.

**Saturday 15 (46-319)**

A[ll day]. G[loomy]. / Mor[ning] In. / After[noon] to Kamei. / Night In.

## FEBRUARY, 1879

25) 馬場辰猪にその典型的な例を見るように、当時の日本人留学生はその滞在中にしばしば観劇を楽しんでいる。「日記」（西田長壽・萩原延壽・川崎勝・杉山伸也編『馬場辰猪全集』第 3 巻、岩波書店、1988）の事項索引（313-19 頁）には、Adelphi Theatre、Aquarium、Criterion Theatre、Drury Lane Theatre など多くの劇場が挙げられており、観劇日を特定化できる。

## 8th Week

**Monday 17 (48-317)**

A[ll day]. F[ine]. N[ight] R[ain]. / Mor[ning] / After[noon] In. / Night Out to College / and Okoshi. / Received / home letters / Nephew Aies[26].

**Tuesday 18 (49-316)**

A[ll day]. F[ine]. / All day at home.

**Wednesday 19 (50-315)**

A[ll day] F[ine]. N[ight]. R[ain]. / Mor[ning] In. / After[noon] to College and Kamei. / Night

**Thursday 20 (51-314)**

A[ll day]. F[ine]. / All at home. / Night

**Friday 21 (52-313)**

A[ll day]. Thick Snow / Mor[ning] / After[noon] In. / Night out to theatre with Kihara[27].

**Saturday 22 (53-312)** ***Cambridge Lent Term divides midnight.***

A[ll day[. G[loomy] / Morning In / After[noon] Out to Kamei. / Night Out to Kasahara's meeting[28].

## FEBRUARY, 1879

26) Aies と、nephew との関係は不明である。

27) この Kihara は、ユニヴァーシティ・カレッジの学籍簿で Kihara, M., Kihard,M. として、1879 年から 1881 年までその在籍が確認できている人物と思われるが（井上琢智前掲書、45、46、71 頁）、具体的には不明である（以下、同様。井上琢智「資料　幕末・明治・大正期イギリス日本人留学生資料（1）」『経済学論究』第 56 巻第 4 号、2003 年 3 月）。なお、おそらくこの木原は、前掲書『弧山の片影』中の 1880（明治 13）の日記に登場する木原であろう（39、50、51 頁）。

28) この Kasahara は、当時留学中の笠原研寿（1852-83）であり、この日に彼が日本学生会で講演したのであろう。日時は不明であるが、南条文雄（1849 -1927）『懐旧録』（東洋文庫、平凡社、［1979］1987、110 頁）によれば、「仏教は一神教なりや多神教なりや」を講演した。なお、笠原は南条文雄とともに東本願寺から 1876 年に派遣され、ロンドン滞在中（1876 年 8 月 11 日から 79 年 10 月）に横山孫一郎から英語を学び、ともにオックスフォード大学に留学した（井上琢智前掲書、54 頁）。

## 9th Week

**Monday 24 (53-310)** ***S. Matthias.***

A[ll day]. F[ine] / Mor[ning] In. / After[noon] Out to College and Iga[29].

**Tuesday 25 (56-309)**

A[ll day]. F[ine]. / All [day] at home / to take lesson.

**Wednesday 26 (57-308)** ***Ash Wednesday.***

A[ll day]. G[loomy]. / Mor[ning] In. / After[noon] to College. / Night to Kamei.

**Thursday 27 (58-307)**

A[ll day]. R[ain and] S[now]. / All [day] at home / Post a letter / to home / Japan.

**Friday 28 (59-306)**

A[ll day] G[loomy]. / Mor[ning] Out to Bank. / After[noon] In to take lesson. / Night

**Saturday, MARCH 1 (60-305)**

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] In. / After[noon] to Iga [..]. / Nigh to Kamei [..].

## MARCH, 1879

## 10th Week

**Monday 3 (62-303)**

A[ll day]. F[ine] / Mor[ning] In. / After[noon] to College. / Night ~~Out~~ In.

**Tuesday 4 (63-302)**

29) この Iga は、伊賀陽太郎（1851-97）であり、宿毛（土佐）にある伊賀家の第 12 代で、私費で留学（渡航期間：1871.10.11-1881）し、馬場辰猪など宿毛だけでなく土佐の留学生の中心的な役割を果たしていた。留学当時の伊賀の英文ノートや彼の下宿先の教師であるハムから受け取った書簡等が残されている（井上琢智「イギリス留学生伊賀陽太郎宛書簡に見る日英交流（1）（2）」『経済学論究』第 61 巻第 3 号・第 4 号、2008 年 2 月・3 月。井上琢智「伊賀陽太郎滞英時代の英文ノート」『経済学論究』第 63 巻第 4 号、2010 年 3 月）。

A[ll day]. F[ine] / Mor[ning] Out / to museum[30]. / After[noon] In to take lesson. / Night In.

**Wednesday 5 (64-301)** ***Ember Week.***

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] In. / After[noon] Out to Kamei. / Night In.

**Thursday 6 (65-300)**

A[ll day]. F[ine]. / All at home.

**Friday 7 (66-299)**

All [day] Fine. / All [day] at home / to take lesson / pay tuition £3.6.3[31] / as other side / list / $26\frac{1}{2}$ hours.

**Saturday 8 (67-298)**

A[ll day]. F[ine]. / ~~A~~ Mor[ning] In. / After[noon] out to Kamei and meeting . / Nigh.

## MARCH, 1879

### 11th Week

**Monday 10 (69-296)**

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] at home. / After[noon] to British Museum / and to College. / Night at home.

**Tuesday 11 (70-295)**

A[ll day] F[ine] / All [day] at home / to take lesson.

**Wednesday 12 (71-294)**

A[ll day]. F[ine]. / All [day] at home / to College / to Kamei.

**Thursday 13 (72-293)**

A[ll day] F[ine] / All [day] at home. / Night to special meeting[32].

30) おそらく、ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン近くの大英博物館のことであろう。3 月 10 日には British Museum と書き、同博物館を訪ねている。他に、3 月 17 日にも訪ねている。

31) この金額は、家庭教師の費用であろう。

32) この special meeting については、日本学生会の会合の可能性もあるが、同会合の開催曜日（木曜日）から考えると他の会合の可能性は否定できない（注 20 を参照のこと）。

**Friday 14 (73-292)**

A[ll day]. D[rizzle]. / All [day] at home / to take lesson.

**Saturday 15 (74-291)**

A[ll day]. D[rizzle]. / Mor[ning] In. / After[noon] to Kamei. / Night at home.

## MARCH, 1879

### 12th Week

**Monday 17 (76-289)**

A[ll day]. D[rizzle]. / Mor[ning] / After[noon] Out to Bank, to College & Musium / pay to M[..] [Thorpe] Bank [33].

**Tuesday 18 (77-288)**

A[ll day]. D[rizzle]. / Mor[ning] In. / After[noon] In to take lesson. / Night out to Statistical / meeting[34].

**Wednesday 19 (78-287)**

A[ll day]. D[rizzle]. / Mor[ning] In. / After[noon] Out to College. / Night Out to Kamei.

**Thursday 20 (79-286)**

A[ll day]. D[rizzle]. / Mor[ning] / After[noon] all in. / Night Out to Baber.

**Friday 21 (80-285)**

A[ll day]. D[rizzle]. / All [day] at home / [to] take lesson.

**Saturday 22 (81-284)**

---

33) 具体的にこの銀行名は不明である。

34) この statistical meeting はロンドン統計協会の会合であり、この日には Henry Heylyn Hayter, Esq., 'The Colony of Victoria : its Progress and Present Position,' がロンドン統計協会で報告された。この報告に対して、山辺の経済学の教師である W.S. ジェヴォンズなどが討論に参加した（*Journal of the Statistical Society of London,* 1879, vol. XLII, pp.369-405.）。前日のジェヴォンズの授業で、この研究会への山辺の参加を勧めた可能性はある。

A[ll day]. D[rizzle]. / Mor[ning] In. / After[noon] to Kamei. / Night to meeting.

## MARCH, 1879

### 13th Week

**Monday 24 (83-282)**

A[ll day]. G[loomy]. [...] / Mor[ning] / After[noon] all in / night. / Hiraoka[35] call me / receive letter from / home.

**Tuesday 25 (84-281)** ***Annunciation B. V. Mary Lady Day.***

A[ll day]. G[loomy]. [..] / All [day] at home / to take lesson / to ~~call upon Hiraoka~~

**Wednesday 26 (85-280)**

A[ll day]. G[loomy]. / Mor[ning] In. /After[noon] Out to Kamei / Night In.

**Thursday 27 (86-279)**

A[ll day]. G[loomy]. / All In / sent out home / letter / Night go to Hiraoka.

**Friday 28 (87-278)**

A[ll day] F[ine]. / All at home / to take lesson.

**Saturday 29 (88-276)**

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] In / After[noon] Out to tailor & Iga, Kamei / Book shop.

## MARCH-APRIL, 1879

35) この Hiraoka は、平岡（市川）盛三郎（1852-82）の可能性がある（以下、同様）。もしも平岡であれば、幕府留学生の一人として、慶應 2（1866）年にロイドのもとで英語を学び、その後ユニヴァーシティ・カレッジ・スクールで物理学を学び、慶應 4（1868）年帰国した。その後、開成学校教員を務めた後、1877(明治 10）年に小幡篤次郎らとともに再びイギリスへ留学し、杉浦重剛とともにオウエンズ・カレッジ・マンチェスターで化学を学んだ（井上琢智前掲書、57、63 頁）。

## 14th Week

**Monday 31 (90-275)**

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] In. / After[noon] Out to Kino[36]. / Night In.

**Tuesday, APRIL 1 (91-274)**

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] / After[noon] in to take les- / son and pay £ ● 2.5 to Morrison [37]. Night.

**Wednesday 2 (92-273)**

A[ll day] fine. / Mor[ning] In. / After[noon] out to Kamei. / Night In.

**Thursday 3 (93-272)**

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] Out [to] tailor / Book shop / After[noon] and Night In. / Pay News Price 2/- / to small / Shopman.

**Friday 4 (94-271)** ***Cambridge Lent Term ends.***

A[ll day]. F[ine]. / All [day] at home / [to] take lesson.

**Saturday 5 (95-270)** ***Oxford Lent Term ends.***

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] Out to Kamei. / After[noon] Out to Boat Race with / Kamei and Clse [38]- / is here. / Night Out to Meeting.

## APRIL, 1879

## 15th Week

**Monday 7 (97-268)**

A[ll day]. F[ine]. / All [day] at home.

**Tuesday 8 (98-267)**

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] In to take lesson. / After[noon] / Night to go to Kumagai[39] / to Received Home / letter / dated Mar[ch] 3rd.

---

36) この Kino については、不明である。

37) この Morrison については、不明である。

38) この Clse については、不明である。

39) この Kumagai とは、ユニヴァーシティ・カレッジの *Fees Books* に記載のある N.Kinnagei

**Wednesday 9 (99-266)** ***Fire insurance expires. Hilary Law Sittings end.***

A[ll day]. F[ine]. / All [day] at home. / After[noon] to Kamei / Okoshi Cirnes[40)]

**Thursday 10 (100-265)** ***Maunday Thursday.***

A[ll day]. G[loomy]. R[ain]. / All [day] at home.

**Friday 11 (101-264)** ***Good Friday.***

A[ll day]. F[ine]. / All [day] at home. / After[noon] go to Okoshi.

**Saturday 12 (102-263)**

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] In. / After[noon] Out ~~to Store~~ / and to Kamei. / Night In. –

## APRIL, 1879

## 16th Week

**Monday 14 (104-261)** ***Easter Monday. Bank Holiday.***

A[ll day]. G[loomy]. / Mor[ning] / After[noon] / out to take Kamei / ~~and~~ to / Windsor[41)]. / Night In. Pay to Morison 6/19 [..].

**Tuesday 15 (105-260)**

A[ll day]. F[ine]. / All [day] At home / to take lesson / and to send out / home letter.

**Wednesday 16 (106-259)** ***Oxford Easter Term begins.***

A[ll day]. F[ine]. / Morn[ing] In. / After[noon] Out to Kamei. / Night In.

**Thursday 17 (107-258)**

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] In. / After[noon] In. / Night Out to

---

であろう（以下、同様。井上琢智前掲書、72 頁）。石川安次郎前掲書『弧山の片影』によると「丈夫氏と同時代に、英国に於いて、綿糸布業の研究をしたる熊谷」（177 頁）であり、その後東洋紡に勤務した熊谷辰太郎のことであろう（井上琢智前掲書、207 頁）。

40) この Cirmes については、不明である。

41) この Windsor については、不明である。

theatre & out / market with K[amei]. Asano[42].

**Friday18 (108-257)** ***Cambridge Easter Term begins.***

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] In. / After[noon] In to take lesson / Night In.

**Saturday 19 (109-256)**

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] Out to Kamei. / Night Out to meeting / Isono[43] lecture.

## APRIL, 1879

## 17th Week

**Monday 21 (111-254)**

A[ll day]. F[ine]. G[loomy]. / Mor[ning] In. / After[noon] Out to Kamei / Night In to Iga.

**Tuesday 22 (112-253)** ***Easter Law Sittings begin.***

A[ll day]. G[loomy]. / A[ll day] at home / ~~to take lesson~~.

**Wednesday 23 (113-252)**

A[ll day]. G[loomy]. / All [day] at home / to take lesson.

**Thursday 24 (114-251)**

A[ll day]. F[ine]. / All [day] at home.

**Friday 25 (115-250)** ***S. Mark, Evangelist.***

A[ll day]. G[loomy]. / All [day] at home / to take lesson.

**Saturday 26 (116-249)**

---

42) この Asano とは、浅野長道（ながより）（1865-86）であろう。彼は、安芸国広島藩主浅野懋照（としてる）の六男に生まれ、後に浅野長勲（ながこと）（1842-1937）の養嗣子となる。1876 年イギリスに留学し、1881 年一旦帰国し、1884 年に再度渡英し、1886 年ロンドンで客死（富田仁編『海を越えた日本人名事典』日外アソシエーツ、1985、61 頁）。ロンドンの Brompton Cemetery にその墓がある。

43) この Isono とは、磯野計（1858-97、渡航期間：1879-85）であろう。彼は、東京大学卒業（1879）後ただちに渡英し、85 年に帰国し、明治屋を創業した（井上琢智前掲書、56、57 頁、瀬岡誠「明治屋の企業者史的研究－磯野計の社会化の過程－」『社会科学』同志社大学人文科学研究所、47 巻、73-88 頁、1991 年）。

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] to City and Bank. / After[noon] Kamei give a present to Yesterday / Night In.

## APRIL, 1879

## 18th Week

**Monday 28 (118-247)**

A[ll day] F[ine]. / Mor[ning] In / After[noon] In / Night out to Minami[44].

**Tuesday 29 (119-248)**

A[ll day]. F[ine]. / All [day] at home / to take lesson / to go Okoshi & evening / to ~~send Kamei~~ 〈Minami〉 ~~letter~~. Receive home letter dated / 25th March [18]79. / 此便ニ渋澤ヨリ書語伴アリタリ[45]

**Wednesday 30 (120-245)**

---

44) この Minami とは、南保（1846-86、渡航期間：1875-86）であろう（以下、同様）。彼は、1872 年吉田清成に同行し、アメリカに渡り、帰国後租税寮に勤務。その後、オランダ人 A. F. ボードインなどと領事を命じられ、ロンドン領事館に勤務した（井上琢前掲書、57 頁、富田仁前掲書、565 頁）。

45) この経緯について「渋沢子爵が笹瀬元明氏［当時、三井物産会社のロンドン支店に勤務していた］を以て、丈夫氏［渋沢は西周の家塾でともに丈夫とともに学び、「堅実」かつ「英語が善く出来る」と丈夫を高く評価していた］に交渉したのは、明治 12（1879）年の春のことで有つた。渋沢子は笹瀬氏へ手紙を出して、丈夫氏へ交渉する前に、先づ父君の清水格亮氏と会見して、詳かに紡績事業を起こす計画を語られ、丈夫氏が其の中堅の人物となり得べきや否やを相談せられた所が、格亮氏も大に之を賛成せられた。･･･ 明治 12 年の丈夫氏の日記を見ると、格亮氏が 3 月 25 日附を以て、此の渋沢子からの交渉に付て報告されたる書面は、4 月 29 日に、丈夫氏の手に入っている」（石川安次郎前掲書、122-24 頁）とされていることからも、この『弧山の片影』の著者石川安次郎が、この日記を参照していることが分かる。なお、三井の依頼で益田孝は外国貿易を担う三井物産会社を 1876（明治 9）年に創立す一方、渋沢栄一の東京商法会議所の創立（明治 11 年）にも関わり、その関係から商法講習所（一橋大学の前身）にも係わった結果、同校の卒業生が多くこの三井物産に入社した。例えば、渡辺専次郎（1860-1916）は、1879（明治 12）年入社し、1882（明治 15）年ロンドン支店勤務となった（長井実編『自叙益田孝翁伝』中公文庫、120 頁、井上琢智「H.S. フォックスウェル文書に見るお雇い外国人簿記・経済学教師の雇用―東京商業学校と東京大学―」『経済学論究』第 68 巻第 3 号、2014 年 12 月、113-42 頁、井上琢智「資料 H.S. フォックスウェル文書と日本―末松謙澄・益田孝・添田寿一書簡―」『経済学論究』第 68 巻第 4 号、2015 年 3 月 124 頁）。なお、この日本語は赤字で書かれている。

A[ll day]. G[loomy]. / Mor[ning] In. / After[noon] out to Kamei. / Night In.

**Thursday 1(121-244)** ***S.S. Philip & James.***

A[ll day]. G[loomy]. / Mor[ning] / after[noon] In / Night out to Theatre (Olympic)[46].

**Friday 2 (122-243)**

A[ll day] F[ine]. / Mor[ning] In. / After[noon] In to give tuition to Morison. / Out to buy box and hat. / Night Out to Sugiura[47].

**Saturday 3 (123-242)**

A[ll day]. F[ine]. / Mor[ning] In. / After[noon] to Kamei and meeting. / Night In.

## MAY, 1879

## 19th Week

**Monday 5 (125-240)**

A[ll day]. F[ine]. / All [day] at home. Send on letter ⟨a⟩ddressed to / [..] Esq. in Japan / and also to others.

**Tuesday 6 (126-239)**

A[ll day]. G[loomy] little cold. / Mor[ning] In. / After[noon] out to Kamei / Night In.

**Wednesday 7 (127-238)**

A[ll day]. G[loomy]. S[now]. / All [day] at home.

**Thursday 8 (128-237)** ***Half-Quarter Day.***

---

46) この Olympic Theatre は、ストランドにある劇場で、1850 年に再建されている。1877 年 2 月 12 日に馬場辰猪は、この劇場で 'Queen of Connaught'（1877 年 H. ジェイ作）観劇している（西田長壽・萩原延壽・川崎勝・杉山伸也編前掲書、第 3 巻、317 頁）。

47) この Sugiura とは、杉浦重剛（1855-1924、滞在期間：1876-80）であろう。第 2 回文部省派遣留学生の一人であり、主としてオウエンズ・カレッジ・マンチェスターの A.W. ウイリアムソンのもとで化学を学んだ。化学者として嘱望されたが、帰国後、教育界へ転進し、日本中学校を創立した（井上琢智前掲書、32、63 頁等、富田仁前掲書、322-23 頁）。

A[ll day]. F[ine]. G[loomy]. / Mor[ning] In. / After[noon] out to tailor. / Night In.

**Friday 9 (129-236)**

A[ll day]. F[ine]. G[loomy]. / All at home.

**Saturday 10 (130-235)**

A[ll day]. F[ine]. G[loomy]. / Mor[ning] In. / After[noon] out to Kino and to / Kamei. / Night In.

## MAY, 1879

## 20th Week

**Monday 12 (132-233)**

A[ll day]. F[ine]. W[indy]. / All [day] at home.

**Tuesday 13 (133-232)**

A[ll day]. F[ine]. W[indy]. / Mor[ning] After[noon] In. / Night out to walk and skate with Iga & / Iriye[48].

**Wednesday 14 (134-231)**

A[ll day]. ~~F.~~ A[ll] G[loomy]. / Mor[ning] In. / After[noon] Out to Kamei. / Night In.

**Thursday 15 (135-230)**

A[ll day]. R[ain]. G[loomy]. / Mor[ning] In / After[noon] In / Night In.

**Friday16 (136-229)**

A[ll day]. F[ine]. W[indy]. / All [day] at home.

**Saturday 17 (137-228)**　晴暖[49]

朝 在宿 / 午後 従五位君ヲ学校ニ迎へコルパス［カンバス］ヲ / 求メ画堂

48) この Iriye とは、入江（穂積）陳重（1856-1926、滞在期間：1876-79）ことであろう（以下、同様）。彼はロンドンのミドル・テンプルやキングス・カレッジ・ロンドンで学び、その後ベルリン大学でも学んだ。帰国後、東京大学法学部講師・教授となった。日本最初の法学博士である（井上琢智前掲書、44 頁）。

49) 以下の日本語は断らない限り、縦書きになっている。

ヲ訪ヒ、杉浦へ行〈キ〉、夕七 / 時帰宅、亀井君トアールスコルト[50] ニ別ル / 夕 在宅

晴暖　　**MAY, 1879**

**21st Week**

晴暖

**Monday 19 (139-226)** ***Cambridge Easter Term divides - midnight.***

朝在宅 / 午後南君 大越君ヲ訪ヒ / 夕 帰宅 / 此日家書ヲ落手ス

晴暖

**Tuesday 20 (140-225)**

朝 富田氏[51] ヲ訪ヒ公使館ニ迎ル / 午夕在宅

**Wednesday 21 (141-224)**

朝晴暖 在宅 / 午 亀井君ヲ訪フ / 夕 在宅

**Thursday 22 (142-223)** ***Ascension Day.***

朝晴暖 在宅 / 午同 歩行 / 夕同 在宅

**Friday23 (143-222)**　此日在宅

朝暖晴 在宅 / 午同　英国大子[52] ヲ国会衛[53] ニ拝ス / 亀井君ヲ訪フ / 夕同 在宅

**Saturday 24 (144-221)**

---

50) このアールスコルトとは、Alscot Rd, Bermondse のことであろうか。

51) この富田とは、富田鉄之助（1835-1916）であろう（以下、同じ）。彼は勝海舟の子の小鹿のアメリカ留学に同行し、ホイットニー・ビジネス・スクールで経済学を学び、72 年に帰国。1879 年 5 月 9 日から外務一等書記官としてイギリスの臨時代理公使を勤めた（井上琢智前傾論文（2）、133 頁、戦前期官僚制研究会編・秦邦彦著『戦前期官僚制の制度・組織・人事』東京大学出版会、1981、297 頁）。後に彼は日銀総裁となり、東京府知事を辞任後、実業界に転じて、富士紡績会社創立に尽力した（富田仁前掲書、415 頁）。

52) ヴィクトリア女王には夫アルバートとの間に 4 男 5 女がおり、長男はアルバート・エドワード（1841-1910）でハノーヴァー朝第 7 代エドワード 7 世、次男アルフレッド（1844-1900）でエディバラ侯爵、三男はアーサー（1850- 1942）でコノート侯爵、四男はレオポルド（1853-84）でオールバニ侯爵であるが、おそらく長男エドワードのことであろう。

53) この国会衛とは、国会議事堂として使われているウェストミンスター宮殿（the Palace of Westminster）の衛兵の詰め所のことであろう。

朝暖 前文此処ニ来ル可シ

## 22st Week

**Monday 26 (146-219)**

終日 朝 在宅 / 晴暖 午 チチー[54]へ書物ヲ求メニ行ク / 夕同 / 此日清水西[55]へ親書ヲ出ス

**Tuesday 27 (147-218)**

曇 朝 / 同午在宅歩行 / 同夕

**Wednesday 28 (148-217)**

曇 朝 在宅 / 雨午 亀井行 / 同夕 在宅 / 同日南より不祥の書[56]ヲ受取 / ル

**Thursday 29 (149-216)**

終日 晴暖 朝在宅〈午前〉一花会[57]へ行 / 午同 / 夕同

**Friday 30 (150-215)** ***Easter Law Sittings end. / Oxford Easter Term ends.***

終日 晴暖 朝在宅 / 午南氏ヲ領事館ニ訪フ / 夕在宅

**Saturday 31 (151-214)** ***Oxford Trinity Term begins.***

終日 晴暖 朝 在宅 / 同夕 日本書生会[58]へ行ク / 同午 ○ レゼント卿[59]へ行キ津田[60]氏 / 江送ル書箱ヲ托ス / ○ 亀井氏ヲ訪フ

---

54) このチチーとは、ロンドンの旧市街を示す City のことである。

55) この清水西は、清水と西だと思われる。清水は渡仏第一号の清水卯三郎（1829-1910）で、西は恩師である西周（1829-97）であろうか。ともに明六社の会員であった（井上琢智前掲書、77、79 頁）。

56) 「不祥の書」が具体的にどの本を指しているのは不明である。

57) この一花会が何を示すのか不明である。

58) この日本書生会とは、現在日本学生会と呼称しているものであろう（西田長壽・萩原延壽・川崎勝・杉山伸也・井上琢智前掲書、第 4 巻 15-20 頁）。

59) このレゼント卿については、不明である。

60) この津田とは、津田 束（つかね）（?-1899 年 1 月 14 日）であろう。彼は、福井藩から沼津兵学校へ藩費で資業生になるために留学した。福井を出立した明治 2 年 10 月には 20 歳であった。資業生として正式に沼津兵学校で学ぼうとしたが、西周が新政府の招きで東京に出て、私塾育英社を創立した。なお、西周の日記には山辺とともにしばしば津田が登場する。この学校で、津田は山辺とは同窓生となった。渋沢の紡績業進出に際して、山辺を紹介した人物で、当時、第一銀行に勤めて、翻訳の仕事をしていた（石川安次郎前掲書、121-22 頁）。彼には山辺の留学中の恩師 W.S. ジェヴォンズの *Money and the Mechanism of Exchange*（1875）の部分訳

## JUNE, 1879

### 23rd Week

**Monday 2 (153-212)** ***Whit Monday. Bank Holiday.***

終日雨冷 / 終日在宅 / 午後一寸博会局[61]へ行ク

**Tuesday 3 (154-211)**

終日雨冷 / 終日在宅 / 午後歩行博覧局へ行ク

**Wednesday 4 (155-210)** ***Ember Week.***

晴雨交リ朝 在宅 / 同 午 亀井君を訪ヒ / 津田へノ状ヲ出ス / 同 夕 在宅

**Thursday 5 (156-209)**

終日晴暖 / 朝 在宅 / 午 歩行博覧局行 / 夕 在宅

**Friday 6 (157-208)**

晴暖 / 同朝 在宅 / 同午歩行 / 同夕在宅

**Saturday 7 (158-207)**

終日曇 朝 在宅 / 強雨午 亀井氏ヲ訪フ / 夕 在宅

### 24th Week

**Monday 9 (160-205)**

終日 朝 伊賀岡村[62]ヲ訪ヒ銀行へ行キ / 晴暖 午南君ヲシチーニ訪ヒハム[63]氏

---

「博士ヂエボンス氏著貨幣論中 信憑ノ部」(1878) がある (井上琢智前掲書、209、196 頁)。なお、樋口雄彦「福井藩から来た留学生津田束」『沼津市明治史料館通信』(第 84 号、2006 年 1 月、3-4 頁)、樋口雄彦『旧幕臣の明治維新－沼津兵学校とその群像』(2007) を参照のこと。

61) この博会局、博覧局とは郵便局のことであろうか。

62) この岡村とは岡村輝彦 (1855-1916、渡航期間：1876-81) であろう。彼は 1880 年にイギリスで弁護士資格を取得し、帰国後、大審院判事等を務めた。商法、海上法の専門家で中央大学学長を務めた (井上琢智前掲書、34、54 頁)。

63) このハム (J. Panton Ham,1819-1902) は、伊賀陽太郎らの下宿先の家主で、ユニテリアンの牧師であり、馬場辰猪をも含めて日本人留学生の家庭教師をもつとめた。この住所は、亀井と山辺とがハムとが最初に会った 1877 年 10 月 16 日の住居は、22 South Hill Park Gardens Hampstead であるが、この日記が書かれた 1879 年の正確な住所は不明である。ただ、1884 年 6 月 27 日の住所は上記住所の 5 番地である。1872 年 6 月 12 日の住所が、37 King Henry's Road, South Hampstead にあったことから考えると、引越したもののハムステッド内にあったと思われる (井上琢智前掲論文「イギリス留学生伊賀陽太郎宛書簡に見る日英交流」(1)(2))。

/ ヲハムプステツドニ訪フ / 夕在宅 / 宿賃ヲ払フ

**Tuesday 10 (161-204)** ***Trinity Law Sitting begin.***

終日 朝 歩行在宅 / 晴暖 午在宅 / 夕在宅 / 此日上野公使[64]出発 / 但シ送別ニハ不行申候事

**Wednesday 11 (162-203)** ***S.Barnabas.***

終日曇暖 / 朝 在宅 / 午亀井ヲ訪フ / 夕在宅 / 此日平岡余ヲ訪フ

**Thursday 12 (163-202)**

終日 終日 在宅 / 晴暖 午歩行

**Friday 13(164-201)**

終日 朝 午 在宅 / 晴暖 夕歩行杉浦氏ヲ訪ヒ / 平岡氏ヲ— —江

**Saturday 14(165-200)**

終日 朝 在宅 / 晴和 午亀井氏ヲ訪ヒ集会へ / 夕小雨 行キ夕十一時帰宅 / 此日ストツクポルト[65]より / 状受取 / 即翌日返書ヲ差出ス事

## 25th Week

**Monday 16(167-198)**

午晴 朝 在宅 / 午雨 午歩行 / 夕在宅 / 専売発明株■ / 博覧会へ行ク

**Tuesday 17(168-197)**

終日 朝 在宅 / 晴暖 午歩行在宅 / 夕在宅

**Wednesday 18(169-196)**

終日 朝 在宅 / 晴暖 午亀井行 / 夕ハムより手形ヲエオリムピルク / 劇場へ行ク / 此日マンチエストルのエバン[66]より / 手紙ヲ落手

**Thursday 19（170-195）**

64) この上野は上野景範で、明治 7（1874）年 10 月 13 日、特命全権公使となり、12 年 5 月 9 日に富田鉄之助が臨時代理公使に着任するまで、その職に留まった（戦前期官僚制研究会編・秦邦彦前掲書、297 頁）。その帰任の送別会のことであろう。

65) ストックポルト（ストックポート）とは、イングランド中部の工業都市で、マージー川の沿岸、マンチェスターの南 9 キロメートルにに位置する。

66) マンチェスターのエバンとは、渋沢の申し出を受け入れた山辺が「紡績工業の本場たるマンチェスター市入り込んだ」（石川安次郎前掲書、123 頁）とあることからすると、最初にマンチェスターでの実習の交渉をした人物（会社）であろう。

終日 朝 在宅 / 晴暖 午 亀井ヲ訪ヒハムより〈ニ〉逢ヒ / 帰宅 / 雨 夕 在宅 / 此日南よりマジソン[67]手紙ヲ受取ル / 又日本渋澤より親書ヲ / 落手[68]

**Friday 20(171-194)** ***Cambridge Easter Term ends.***

終日 朝 在宅 / 晴暖 午 マンチエストルへ下ル積リの処 / 電報ヲエ中止 在宅 / 南氏ヲ訪ヒ冨田ト咄シ / 夕　帰宅 / 此日グスゴウ[69]へ金子入書状ヲ出ス / 国元より新聞ヲ受取ル

**Saturday 21(172-193)**

終日 朝 在宅 / 晴暖 午 亀井氏ヲ訪ヒ国元よりの / 状ヲ受取ル / 夕 在宅

## 26th Week

**Monday 23(174-191)**

〈終[日]〉晴暖 朝 在宅 / 午歩行 / 夕在宅

**Tuesday 24(175-190)** ***S.John Baptist. Midsummer Day.***

終日 在宅 歩行 / 晴雨交

**Wednesday 25(176-189)**

終日 晴雨交 / 朝在宅 / 午書林亀井行 / 夕在宅 / 此日ハムへ八月十六日より / 十二月十六日ニ返ル迄の / 金ヲ払フ

**Thursday 26(177-188)**

晴暖 終日在宅 / 歩行

**Friday 27(178-187)**

晴暖 終日在宅 / 歩行

**Saturday 28(179-186)**

---

67) このマジソンとは、ジャーディン＝マセソン商会である。この商会は「東インド会社所属の商船の医師であった W. ジャーディンと私貿易業者 J. マセソンが 1832 年に設立し、41 年に本店を澳門（マカオ）から香港へ移したパートナーシップ形態の商社」であり、開港後「長崎ついで横浜へと進出し」「極東における最大最強のイギリス商社」であった（石井寛治『近代日本とイギリス資本—ジャーディン＝マセソン商会—』東京大学出版会、1984、iii-iv 頁）。

68) この渋沢とは、渋沢栄一のことで、山辺との関係については注 15 を参照のこと。この記述は 4 月 29 日に最初の渋沢からの書簡を受け取って以後も、両者で書簡のやり取りがあったことを示している。7 月 7 日付けで日記にも「渋澤へ書状認メ送り出す」とある。

69) このグスゴウとは、グラスゴーのことであろう。

晴暖 朝在宅 / 午亀井氏ヲ訪ヒ / 夕在宅

## 27th Week

**Monday 30(181-184)**

曇雨 終日在宅 / 歩行

## JULY, 1879

**Tuesday JULY 1(182-183)**

雨 終日在宅 / 夕晴 歩行

**Wednesday 2(183-182)**

終 晴雨交リ / 朝十時より夕五時迄キルボンの産 / 業博覧会[70]ニ至ル り消日ス

**Thursday 3(184-181)**

終日 在宅 / 雨

**Friday 4(185-180)**

朝晴 在宅 / 午同 亀井君ヲ訪フ / 夕同 在宅

**Saturday 5(186-179)** ***Oxford Trinity Term ends.***

終日 曇雨 / 同 在宅歩行

## 28th Week

**Monday 7(188-177)**

終日 晴暖 / 在宅歩行 / 渋澤へ書状認メ送出ス

**Tuesday 8(189-176)**

終日 在宅歩行 / 晴雨

**Wednesday 9(190-175)** ***Fire Insurance expires.***

---

70) 「キルボン [Kilburn] の産業博覧会ニ至り」とは、「キルボンから産業博覧会が開催されたハイド・パークへ行った」ということであろうか。ただ、すでに水晶宮は「ロンドンの南校外シデナム [Sydenham] 丘陵地帯」へ移り、「1854 年 6 月 10 日、新しいく生まれ変わっ」（松村昌家『水晶宮物語—ロンドン万国博覧会 1851 —』リブロート、1968、219-220 頁）ていた。

終日 晴雨 亀井行 / 在宅

**Thursday 10(191-174)**

終日 晴雨 / 在宅歩行

**Friday 11(192-173)**

終日 晴雨 / 在宅歩行

**Saturday 12(193-172)**

終日 晴雨 / 朝在宅 / 午夕 亀井并ニ集会へ / 行ク

## 29th Week

**Monday 14(195-170)**

終日 曇晴雨 / 在宅散歩

**Tuesday 15(196-169)**

終日 曇晴 / 在宅散歩 / 越後ノ平田[71)]へ書ヲ出ス

**Wednesday 16(197-168)**

終日 曇晴 / 朝在宅 / 夕午 ストランド[72)]并ニ亀井へ / 行ク 夕帰宅

**Thursday 17(198-167)**

終曇 雨 / 在宅歩行

**Friday 18(199-166)**

終日 曇雨 / 在宅散歩

**Saturday 19(200-165)**

終日 曇雨 / 在宅散歩亀井君ヲ訪フ / 後ポリテクニツク[73)]へ同君ヲ誘 / フ

---

71) この越後ノ平田については、不明である。

72) このストランドとは、Strand で、ロンドンのシティにある道路で、トラガルファー広場より北東方に王立裁判所付近までで、多くのホテル、レストラン、劇場がある。

73) このポリテクニツクとは、ロンドンにあったバケーシー・ポリテクニークであろうか。バケーシー・ポリテクニークについては、柴沼晶子「大江スミの留学したバタシー・ポリテクニック」(『敬和学園大学研究紀要』第 13 号、239-52 頁、2004) を参照のこと。また、イギリスにおける工業教育については広瀬信前傾論文 (1-14 頁) および広瀬信「イギリス工業教育発展史 (2) − 拡張期 (1860 年代末〜90 年代) −」(『富山大学教育学部研究論集』第 8 号、2004、1-14 頁) を参照のこと。なお、ポリテクニークと称する学校は、これらの研究からは登場しないことを考えると、このポリテクニックはこのバケーシー・ポリテクニークであろう。

## 30th Week

**Monday 21(202-163)**

曇雨 終日 / 朝 南氏ノ宅ヲ訪ヒシチーの / 書林へ行キハム氏ヲ訪フ / 夕 十時帰宅

**Tuesday 22(203-162)**

晴 在宅

**Wednesday 23(204-161)**

晴 亀井ヲ訪フ

**Thursday 24(205-160)**

晴 在宅 平岡ヲ訪フ

**Friday 25(206-159)** ***S. James.***

終日 晴雨交 / 在宅 散歩

**Saturday 26(207-158)**

終日 曇晴 / 亀井氏ヲ訪ヒ集会へ行 / キ平岡君へ額面ヲ托シ / 佐和[74]氏へ書状ヲ出ス / 此日国元より / 着状ヲ受取

## 31st Week

**Monday 28(209-156)** 晴暖

午後 / 亀井君伴ヒ仕立屋時計屋 / 等へ行キ 夕伊賀一連ト芝居 / へ行ク

**Tuesday 29(210-155)**

晴暑 / 午在歩行 / 国元江書状差ス

**Wednesday 30(211-154)**

晴暑 / 亀井君ヲ訪フ、御請ヲナス / 佐和・大越・伊賀へ状出ス / 此日荷物ヲ伊賀へ送ル

**Thursday 31(212-153)**

在宅 終日 曇雨 / 夜芝居へ木原ト同行 / ~~此日書籍壱包亀井氏汪~~ / 送ル伊賀へ志送ル / 帰途一快東可笑云々

---

74) この佐和については、不明であるが、当時、フランスに滞在していた（8 月 6 日を参照）。

## AUGUST, 1879

**Friday 1(213-152)**

在宅歩行 熊谷ト同行 / ~~夜木原ト エーマアーケット~~[75] 芝居行 / 帰途一快東 / 此日亀井へ書籍デリバリーニテ / 送ル

**Saturday 2(214-151)**

朝十時出立（アールスエルト[76]より）夕第六 / 時マンチエストル着 Clifford St 18[77] / ニ下宿ス

## 32nd Week

**Monday 4(209-156)** ***Bank Holiday.***

在宅歩行 晴 / 書状ヲ伊賀 木原 ソップ[78] 杉浦 / 亀井へ送ス

**Tuesday 5(217-149)**

〈雨〉/ 午前 Great Portland のシカン氏ヲ 訪ヒ 午後 Pall Mall 30 のブルツガス / 并ニ Piccadilly 57 のエバンス[79]氏ヲ / 訪フ / 亀井氏より手紙受取

**Wednesday 6(218-147)**

雨 / 午前十時市役所ニテ府知事 Grundy[80] / 君ヲ訪ヒ 午後 Haworth の会

---

75) このエーマーケットについては、不明である。なお、Piccadily の東部から北へ Brewer Street までの通りで、1658 年建設された。そこには、酒造家であり、その土地所有者の Thomas Ayres の名前から命名された通りがある（渡辺和幸『ロンドン地名由来事典』鷹書房弓プレス、1998、31 頁）。

76) このアールスエルトについては、不明である。

77) この Clifford St 18 について、石川安次郎前掲書『弧山の片影』は、「マンチェスターに到着した。先づ宿所をクリフォード街 18 番に定めて」（125 頁）と書いている。ただし、現代のマンチェスターには、この名称の通りは、5 箇所ある。可能性がもっとも高いのは、現在のマンチェスター大学に隣接するクリフォード街であろう（*Manchester A-Z*, Geographers' A-Z Map Company Lim. p.60, 1B）。なお、石川安次郎前掲書『弧山の片影』は「明治 12 年頃は、マンチェスター市と・・・サルフォード市とを合せて、凡そ 50 万人の人口であった」（124-25 頁）と書いている。

78) このソップについては、不明である。

79) この「Great Portland のシカン」、「Piccadilly 57 のエバンス」については、不明である。また、「Pall Mall 30 のブルツガス」については、注 94 を参照のこと。Pall Mall と Piccadilly とは現在の地図で確認できる地名である。

80) この Grundy とは、Charles Sydney Grundy で 1877 年から 79 年までマンチェスター市

社[81] / へ行キ午後四時半帰宅 / 此日木原へ仏国の佐和氏より / 手書状受取ル

**Thursday 7(219-146)**

晴曇雨 / 午前ビクトリヤ停車場[82]へ行逢シ Mosly / の Leppoe[83]氏 Peter Sqr のウィントルボットム[84] / 氏ヲ訪ヒ 午後再度ボットム氏ヲ訪ヒ、同氏の / 友人三四のウエーカハウス[85]ヲ訪フ / 此日新聞ヲ亀井より落手 / 同 シユオン[86]氏へ書状 / 送ス

**Friday 8(220-145)** ***Trinity Law Sittings ends.***

晴 ビクトリヤ停車場より朝九時廿分 / 午前~~Hawaorthの会~~社出 車(ママ) Black /

---

長を務めた（本日記で「知事」と書かれているのは、誤記である）。その息子 Sydney Grundy（23 March 1848-4 July 1914）は、著名なイギリスの劇作家である。. なお、前掲書『弧山の片影』では「市長グランデー氏を訪問したが、 ･･･ 市長は日本人に敬意を払はず、極めて冷淡に之を待遇し、一言の下にこれを拒否した」（125-26 頁）。そのため、「丈夫氏は止むを得ず、新聞に広告を出して、之を求めた。『プライメーヂ附きで、紡績工場へ入りたいが、之を入れて呉れる、所はないか』・・・此の広告に対して、数通の書面が来たので、丈夫氏は其の中から選択して、数人に会し、その工場をも訪問」した（石川安次郎前掲書、126 頁）。なお、8 月 14 日を参照のこと。

81) この Haworth とは、マンチェスターの地名であろう。現在では Haworth と名前が付く通りは 6 箇所あるが、特定化はできない（*Manchester AZ*, Geographers' A-Z Map Company Lim. p.60, 1B）。

82) このヴィクトリア停車場とは、Hunts Bank にある鉄道の駅で、1842 年にマンチェスター＝リーズ鉄道のための駅として開設され、当初はきわめて小さな駅であった（Glynis Cooper, *The Wharncliffe Companion to Manchester : An A to Z of Local History*, Wharncliffe Book, 2005, pp.161-62.）。

83) この Mosly は、Mosley の誤記であるとすれば、マンチェスターの地名であろう。Leppoe はおそらく人名であるが、不明である。

84) Peter Sqr はマンチェスターの地名で、ウィントルボットムとは、人名であるが、不明である。8 月 12 日には「ウインターボットム」として登場するが同一人物であろうか。

85) このウエーカハウスとは、文脈からして worker house（工場）であって、救貧院（work house）ではないだろう（8 月 13 日を参照のこと）。

86) このシユオンについては、不明であるが、山辺丈夫の日本文の日記（1880 年 1 月 1 日〜7 月 13 日）にも登場する。「午前オルドハムのプラット社を訪ひ、アージクリフトの染布場に至る。シヨオン氏を訪ふ」（石川安次郎前掲書、遺稿、42 頁）。他に、「シュオン」、「シオン」について同一人物であろう（8 月 7 日・9 日・11 日・12 日・25 日などを参照のこと）。

burn[87)]-Briggs[88)] ヲ訪ヒ工場一見の後午飯 / ヲ御馳走ニナリ御車ニテ諸處ヲ見巡リタル / 後夕刻帰宿

**Saturday 9(221-144)**

晴 / 朝シユオン、ハァーウオルス[89)] ヲ訪ヒ スシユトンの / エツギンボツトム[90)] 氏の製造所ヲ訪フ / 殆ント相談ヲ付り / 彼ノ要スル駄銀 / 年々百磅

## 33rd Week

**Monday 11(223-142)** ***Half-Quarter Day.***

午前 シユオン氏エツギンボツトム新聞局ヲ / 訪ヒ帰ル 杉浦 石松[91)] 氏寓居

87) Blackburn について、前掲書『弧山の片影』は「ブラックバーン市と云ふと、又マンチェスター市から北西 30 英里ばかり離れて居た、この都市は小さい町で、人口も丈夫氏が往かれた頃は、其の付近の村落を合せたる下院議員の選挙区で、8 万人ばかり有つた・・・綿糸紡績は頗る盛大なる地方で、... 町にはハーグリーヴス［J. Hargreaves, ?-1778］氏と云ふ、紡績器械を発明したる名家もあり、丈夫氏が紡績業を修行したる地としては、世界に於て、此の上のない良い市で有つた」（129 頁）。

88) この Briggs とは、ブラックバーンのローズヒルの工場の「工場主」（石川安次郎前掲書、126 頁）である。

89) このハァーウオルスについては、不明である。

90) このスシユトンとは、ブラックバーンの地名であろうか。また、このエツギンボツトムは、山辺の新聞広告に応じた工場主であるが、不明である。なお、「丈夫氏の心は、寧ろボツトム氏の方に傾いて居た」（石川安次郎前掲書、127 頁）。このように当初、契約が成立しかけたが、「エツギン、ボツトムを訪ふ。大失望」（8 月 12 日：石川安次郎前掲書、126 頁）とあり、契約は成立しなかった。その結果、ブリツグスと契約を結ぶこととなった（石川安次郎前掲書、127 頁）なお、エツギン、ボツトムとウィントルボツトムとの関係も不明である。

91) この石松とは、石松（さだむ）決（1857-1943）である。福岡県出身で平賀義質（よしただ）の斡旋により、1867（慶応 3）11 歳にして長崎に出て英学を修め、1870 年 14 歳で福岡藩の貢進生となって大学南校に入学した。ここで外国教師の化学実験に感動して、化学を志すようになった。 1878 年東京帝国大学理学部卒業。当時、旧福岡藩主の黒田長溥（ながひろ）は廃藩置県後も、旧福岡藩士出身で東京帝国大学卒業者を対象に、個人的な資金援助を行って欧米留学生として派遣していた。義美が大学で研究していた「科学染料による染色法」の経験が見込まれ、黒田の給費でイギリスに留学し、マンチェスターのオーエンス・カレッジに入学、染色術を専攻し、実用的な工業を学んだ（滞在：1878 年 11 月〜81 年 7 月、2 度目；1887 年 6 月〜88 年 9 月）。1881 年に帰国し、東京職工学校（東京工業大学）、東京大学教授、農商務省技師となる。1882 年、平賀義質と長男の急死に伴い、義質の長女の婿養子となり家督を継いだ。これを期に名前を平賀義美と改名した（『平賀義美先生』丁酉倶楽部、1934、唐澤富太郎『貢進生』ぎょうせい、1974）。平賀の第一回目の留学の時期に、杉浦重剛（1855-1924、滞在：1876.6-80.5）、高松豊吉（1852-1937、滞

ヲ / 訪、同道ニテ歩行ス / 此亀井 杉浦 シユオンの手紙 / ヲ受取ル

**Tuesday 12(224-141)**

晴 / 午前シユオン氏ヲ訪ヒ 次キニエツギンボツトムヲ / 訪フ大失望 午後ウインターボツトム氏ヲ / 訪フ

**Wednesday 13(225-140)**

晴 / ○ 十四日ト前後ス / 午前 ハム氏より書状 亀井氏より新聞ヲ / 受取 十一時ニレポオツク[92)]氏の役所ヲ / 訪ヒ 散歩帰宅 / 此日リバアープールのハウスへ書状 / 木原へ新聞ヲ送ス

**Thursday 14(226-139)**

雨 十三日ト前後ス / 午前マンチエストル知事ヲ訪フ被断、次 / キニウイントル、ボツトル氏ヲ訪フ 次キマクナル[93)] / ヲ訪フ

**Friday 15(227-138)**

晴 / マクナル氏ヲ訪フ失望 此日ブルツク[94)] / 君へ書状ヲ書ク 并ニ亀井君 / へ

---

在：1879-82。石川安次郎前掲書『弧山の片影』収録の「明治 13 年日記」にはしばしば登場する。1880 年 1 月 13 日・31 日、2 月 2 日、3 月 7 日、4 月 12 日・29 日、5 月 1 日）もオウエンズ・カレッジで化学を学んでいた（井上琢智「幕末・明治・大正期　イギリス日本人留学生資料（1）」『経済学論究』〈関西学院大学〉第 56 号第 4 号、2003 年 3 月、192 頁）。なお、猪名川沿いに 1919 年に平賀義美が建設した邸宅は英国風西洋館であり、この邸宅は 1990 年、兵庫県川西郷土館に移築され、現在一般公開されている。

92) このレポオツクについては、不明である。なお、8 月 20 日の「レポツク」と同一人物であろう。

93) このマクナルについては、不明である。しかし、石川安次郎前掲書『弧山の片影』ではこの 8 月 14 日に最初に訪ねた翌日の「15 日にはマクナル氏を訪問し、是も『失望』と日記に書いている」（126 頁）。

94) このブルツクはブリツゲス、ブリツグスのことである。山辺は「日記に依ると、8 月 5 日に初めて此紳士を訪問して居られる〈注 79 の「Pall Mall 30 のブルツガス」である〉。それから 8 日には、ブラックバーン市に往て、彼の工場を一覧し、午餐を共にし、馬車にて諸処を見物せられた。ブリツグス氏が最初から、丈夫氏に厚意を有して居たことは、この記事で分かる。然かし此の時は、丈夫氏の心は寧ろボツトム氏の方に傾いて居たので有る。然るにボツトム氏もマクナル氏も、相談が纏まらなくなつたので、［8 月］15 日にブリツグス氏へ書面を発せられた、之には必ず熱心なる要求が書いて有つたに違いない。それに対する返事が 22 日に来た、而して 25 日にブラックバーン市に往て、ブリツクス氏に面会すると、快く之を諾した」（石川安次郎前掲書、126-27 頁）とある。この人物について、「ブリツゲス氏と云ふ人が有つた。彼は紡績工場主で有るのみならず、英国の衆議院議員で立派な紳士で有つた」と。

**Saturday 16(228-137)**

雨終日在宅

## 34th Week

**Monday 18(230-135)**

晴雨 / ウインター、ボツトム氏并ニコセエー[95]氏ヲ訪 / フ、此日亀井より状落手 / コセエー氏次キのサタデー [Saturday] ニ / 会スルヲ約ス

**Tuesday 19(231-134)**

晴雨 終日在宅歩行 / 亀井より新聞受取

**Wednesday 20(232-133)**

晴雨 / 終日在宅 / レポツク氏より手紙ヲ受取ル / 同記事ニ今よりホルトナイト[96] ■ / ■マトルトヲ報ス

**Thursday 21(233-132)**

雨 終日在宅 / 亀井氏へ書簡郵便ニテ / 金十听金并ニ状ヲ送ス

**Friday 22(234-131)**

晴 朝散歩 / 此日ブラツバルン ブリツグ氏 / より手紙受取ル

**Saturday 23(235-130)**

晴 朝コーセー氏ヲ訪散歩 / 此日亀井氏より返書金の / 受取ヲ知ル

## 35th Week

**Monday 25(237-128)**

晴雨 / 此ブラツクバルンへ行キ停車場ニテブロツグス / ニ逢フ大成功 / He says “I have received / another recommendation from my friend / The money is not matter of question. / You can come 〈to my mill from〉[97] any time you like.”

95) このコセエーについては、不明である。なお、8 月 27 日の「コアセー」は同一人物であろう。
96) このホルトナイトについては、不明である。
97) ‘to my mill from’ は、前の行に挿入されている。なお、この英文は、石川安次郎前掲書『弧山の片影』(127 頁) で全文引用されている。

**Tuesday 26(238-127)**

晴雨 / 此日亀井君并国元よりの書状ヲ受 / 取ル 七月十五日出ナリ 此日シユオン氏 / ヲ問フ / 此日ハム・亀井・伊賀・南・木原 / 発書状ヲ出ス

**Wednesday 27(239-126)**

雨 / コアセー氏ヲ訪留守

**Thursday 28(240-125)**

晴雨 / ブラツクバルへ行キブロツグスヲ訪ヒ工人へ紹 / 介ヲエ後新宿所 No.5. Simmons st[98] / へ行キ相談ヲ極ム / 此日コアーセー氏ヲ訪ヒ成功ヲ告ケ 条 / 約書ノ必要ナラサルヤヲ問ヒシニ、勿論夫レニ / 不得後日ブルツクスヲ見タトキハプレミアムの高 / ヲ咄ス可シト云ヘリ / 此日ハム并ブロツクスより手状受取

**Friday 29(241-124)** 晴雨

此日国元の書状ヲダス（書留郵便ニテマルセエユ）/（亀井 三井[99] 伊賀状 / 木原 杉浦状）/ 伊賀へ亀井へ送〈ル〉チエツク三十五志ヲ払入 / Marseilles[100] ヲ頼ル / Marseilles ト局違ヘタリ状ノ面ニ

**Saturday 30(242-123)**

晴雨 / 此日朝十一時廿五分マンチエストル出車、午後 / 十二時半■ブラツクバルン着 / No. 5. Simmon's st / Blackburn

## SEPTEMBER, 1879

### 36th Week

**Monday 1(244-121)**

晴 / 朝八字（ママ） 半工場出席 午後十一時半 / 食事ニ帰宅、午後十二時三十分再ヒ出 / 席 五時半帰宅 / 以後日々同事書ヲ以テ / 工場出席トノミ記ス / 此日三井養太郎君より / 返書受取

---

98) この No.5. Simmons st はブラックバーンの地名であり、ブラックバーン駅と Corporation Park との間にあり、駅の近くに位置する。山辺丈夫のブラックバーンの住所である。

99) この三井とは、9 月 1 日に登場する三井養太郎のことだと思われるが、具体的には不明である。

100) この Marseille（マルセーユ）のイギリス表記が Marseilles である。

**Tuesday 2(245-120)**

晴 / 工場行 委細ハ前ニ同断 / 亀井君へ手状出ス / シウオン氏へ — —

**Wednesday 3(246-119)**

晴 / 工場行 前ニ同断

**Thursday 4(247-118)**

晴 / 工場行 / 〈Friday〉此日亀井 井上[101] 伊賀より / 手紙受取 / 此夜ジョー[102]ト / 影画屋へ行ク

**Friday 5(248-117)**

晴 / 工場行 / —— / ——

**Saturday 6(249-116)**

晴 / 工場行 / 午後アセー[103]氏ト田野ヲ歩行ス

## 37th Week

**Monday 8(251-114)**

晴 / 工場行 / シオン氏より手紙受取ル

**Tuesday 9(252-113)**

陰雨 / 此日風気ニテ工場欠席 / 終日在宅

**Wednesday 10(253-112)**

陰晴 / 工場行 / 夕頭痛ニテ苦シム / 新聞受取

**Thursday 11(254-111)**

陰雨 / 午後工場行午前収床 / 亀井〈君〉より状受取 / 同君へ状出ス

**Friday 12(255-110)**

晴 / 工場行 / 夕洗湯行

**Saturday 13(256-109)**

晴 / 工場行 / 夕後歩行 / 此日写影ヲ取ル

101)この井上については、不明である。
102)このジョーについては、不明である。
103)このアセーについては、不明である。また、9 月 16 日のアスレーも同一人物であろう。

## 38th Week

**Monday 15(258-107)**

曇 / 工場行

**Tuesday 16(259-106)**

晴 / 工場行 / 夜アスレート共ニ / 劇場行

**Wednesday 17(260-105)**

晴 / 工場行 / 此日八月十一日出の着状 / 并ニ新聞ヲ受取ル / 并ニ百六十五磅為換 / 落手

**Thursday 18(261-104)** ***Ember Week.***

晴 工場行 / 亀井君江状差出ス

**Friday 19(262-103)**

晴 / 工場行

**Saturday 20(263-102)**

晴 雨 / 工場行

## 39th Week

**Monday 22(265-100)**

晴 小寒 / 工場行 / 三井君へ書状出ス

**Tuesday 23(266-99)**

晴 / 工場行 / 亀井より手状受取 / 亀井 伊賀へ金ノ落手 / 書状差出ス

**Wednesday 24(267-98)**

晴 / 工場行 夜劇場行 / リバープールのハウス[104)]より状受取

**Thursday 25(268-97)**

雨 / 工場へ欠席ス / 在宅評書 / ~~亀井君へ状差出ス~~ / 状■■■■ / 此日ボウス[105)]氏へ書状 / 出ス

---

104)このハウスについては、不明であるが、11 月 4 日に「ハウス」が登場し、「氏」が付してあることを考えると、氏名であろう。

105)このボウスについては、不明である。27 日の「バウス」と同一人物であろう。リヴァプールの工場主であろう。

**Friday 26(269-96)**

晴 雨 / 工場行 / 此日ボウス氏より手状受取ル

**Saturday 27(270-95)**

晴 / 朝一寸工場へ行キ午後リバープール / へ下ル モンデー[Monday] の朝迄バウス氏の / 客トナル

## 40th Week

**Monday 29(272-93)** ***SS. Michael & All Angels. / Michaelmas Day.***

晴 / 朝十時半リバープール帰宿ス / 少々風気ナルヲ以テ工場 / 欠席 / 此日井上 亀井氏より手状受取 / 同［并ニ］ハム氏へ 同［手状］出ス / 并ニボウス氏へ / 伊賀氏へ

**Tuesday 30(273-92)**

晴雨 / 工場行 / 此日御国元江の書信差出ス / ブラツクバルンの郵便局へ托ス

## OCTOBER, 1879

**Wednesday 1(274-91)** ***Cambridge Michaelmas Term begins.***

雨 / 工場行 / 此日カメ井より状受取 / 同氏へ返書出ス

**Thursday 2(275-90)**

雨 / 工場行 / 此日バウス氏より書状 写真 / 受取ル

**Friday 3(276-89)**

雨 / 工場行 / 此日朝澤木[106)]并ニ伊賀より / 手紙受取ル / 伊賀 カメ井へ手状出ス

**Saturday 4(277-88)**

雨 / 工場行 / 夕練綿部頭所ロウ[107)]君 / ヲ宿所ニ饗ス

106)この澤木については、不明である。

107)このロウについては、不明であるが、山辺丈夫の日本文の日記（1880 年 1 月 1 日〜7 月 13 日）にも登場する。「1 月 24 日 ··· 此夜ロウ氏来る」（石川安次郎前掲書、遺稿、43 頁）。

## 41st Week

**Monday 6(279-86)**

晴 / サンデー朝八字(ママ) ブラツクバルンヲ出テ / 夕五字(ママ) 龍動着 No 132 Stanhope[108] / ニ下宿ス 伊賀ヲ見舞フ / 公使館 ハム 木原ヲ見舞フ

**Tuesday 7(280-85)**

晴 / 南 三井 伊賀ヲ見舞フ / 杉浦 笠原 南條 入江ヲ見舞フ

**Wednesday 8(281-84)**

晴 / 国元への書状ヲ書き / 亀井ヲ見舞フ

**Thursday 9(282-83)**

曇 在宅 / 書状ヲ国元へ認メ / 午後木原 熊谷来ル / 歩行ス

**Friday 10(283-82)** ***Oxford Michaelmas Term begins.***

晴 / 朝 南條 笠原ヲ見舞ヒ / 午後動物園[109]ハム 亀井 / ヲ見舞ヒ夕 伊賀ヲ見舞フ / 三井へ笹瀬への手状托ス

**Saturday 11(284-81)**

晴 厚霧 / 午前銀行杉原[110]ヲ見舞ヒ午後 / 亀井ト歩行詰処へ行キ 夕ニ / 集会へ行ク /国元より九月二日の状ヲ受取 / 同[国元]へ書状・金子差出ス

## 42nd Week

**Monday 13(286-79)**

大霧 / サンデーの朝十時ユーストン[111]出車、午後九 / 時ブラツクバンへ到着ス / 此日午後工場出席 / 亀井へ状出ス / 此日紡績所役所ニテブルツグス

108)1879 年 10 月から 80 年 3 月まで、この Euston Road の Stanhope 190 番地には、杉浦重剛、入江（穂積）陳重、河上謹一が居住しており、山辺は同じ地域の No 132 に居住したことになる（石川安次郎前掲書、104 頁）。

109)この動物園（London Zoo）は、ウェストミンスターに存在する世界で最初の科学動物園である。1828 年に開設された当初は科学的研究のために動物を収集しておくことが目的であったが 1847 年に一般公開された。

110)この杉原については、横浜正金銀行のロンドン支店勤務の社員であろうか。

111)このユーストンとは、Euston Station のことであり、マンチェスター、リバプール、グラスゴー、エディンバラへ向かう駅である。山辺のマンチェスター、ブラックバーンからロンドンへ戻ってきた際の住所 Stanhope はこの駅の西側にある。

氏江百五拾磅 / の禮銀の内、七拾二磅ヲ拂ヒ受取 / 書ヲ受取リタリ[112)]

**Tuesday 14(287-78)** ***Fire Insurance eexpires.***

雨 / 工場行 / 此日バウス[113)]氏より状并ニ書付ヲ / 受取ル / 亀井へ / 写真送ル

**Wednesday 15(288-77)**

晴 / 工場行 / 此日亀井より状并ニ新聞 / 落手

**Thursday 16(289-76)**

晴 / 工場行

**Friday 17(290-75)**

雨 / 工場行 / 此日大橋[114)]頭ヲ傷ス

**Saturday 18(291-74)** ***S. Luke.***

工場行 / ロウ氏来ル

## 43nd Week

**Monday 20(293-72)**

晴 / 工場行 / 此日より紡糸室ニ入ル / 亀井へ状 ボウス氏へ状并ニ / 包物送出ス

**Tuesday 21(294-71)**

晴 / 工場行 / 散歩 / 夕 エキスチヤンジへブルツクスの / 演説[115)]ヲ聞キニ行キタリ / 此日ボウス氏より手状包物 / 来ル / to day I take the row not to / indulge solitarily, I need to do.[116)]

---

112)「百五拾磅の禮銀の内、七拾ニ磅ヲ拂ヒ受取書ヲ受取リタリ」は朱書きされている。この点について石川安次郎前掲書『弧山の片影』では、「工場の見習金として、ブリツグス氏へ、1,500 円を払ふことに協定し、それは渋沢子爵が紡績会社設立費の中から支出され、10 月 13 日にはその半金、750 円をブリツグス氏へ渡された」と書かれている。当時の為替は 1 円=1 ドルであり、0.1 ポンドであった。

113)このバウスについては、不明である。なお、10 月 20 日の「ボウス」も、同一人物であろう。

114)この大橋については、不明である。

115)ブラックバーン市にある取引所のことであろう。ブルツクスがどのような演説をしたか不明である。

116)この英文は朱書きされている。

**Wednesday 22(295-70)**

雨 / 工場行午後 / 此日亀井君より状并ニ新聞 / ヲ受取ル

**Thursday 23(296-69)**

雨 / 工場行 / 一　此日南領事冨田代理公使 / より蚕勤の案内状ヲ受ク / 一　此夜ロウ君ト芝居行

**Friday 24(297-68)**

雨 / 工場行

**Saturday 25(298-67)**

雨 / 工場行 / 此日午後フツトボール[117]へ行ク

## 44th Week

**Monday 27(300-65)**

晴 / 工場行 / 此日ハウス 亀井 伊賀 藤井[118] / 日本宿元江書状出ス / （アメリカ通り）

**Tuesday 28(301-64)**

晴 / 工場行 / 此日宿元状并新聞受取ル

**Wednesday 29(302-63)**

晴 / 工場行 / 午後歩散の為休業 / 此日藤井より手状受取 / 川路氏の凶報[119]ヲ聞ク

**Thursday 30(303-62)**

晴 / 工場行 / 此日怪我ニテ面手ヲ傷ス / 病院へ行ク

---

117)このフツトボールとは、イギリスではサッカーもしくはラクビーのことを意味するが、前者は労働者階級のスポーツであり、後者は中産階級のスポーツであり、一般的にフットボールと言えばサッカーのことを指す（安東伸介・小池滋・出口保夫・船戸英夫編『イギリスの生活を文化辞典』研究社出版、1982、586-92 頁）

118)この藤井については、不明である。

119)この川路氏の凶報が何を示すが不明である。川路聖謨（1801-68）のピストルによる自刃（1868）を指すのであろうか。この「凶報」だとすれば、この 1879 年時点で「聞ク」と書くのは不自然でる。すでに、自刃については知られていたからである。また、孫の太郎（1844-1927）についても、この時期、芝三田台三番地に慶応義塾の予備校としての役割を果たした英語塾「月山学舎」を開校しており、「凶報」が示すような事件に遭遇していない。

**Friday 31(304-61)**

曇 / 工場へ行ク能ハス下宿 / ニテ保養ス / 此日カメ井より手状 / 落手

## NOVENBER, 1879

**Saturday 1(305-60)**

曇 / 在宿ニテ保養ス / 亀井 南 ハウスへ書状出ス / 此日午後初テ雪降

## 45th Week

**Monday 3(307-58)** ***Michaelmas Law Sittings begin.***

曇晴 / 工場行 / カメ井 熊谷 木原へ書出ス

**Tuesday 4(308-57)**

曇晴 / 工場行 / 此日ハウス氏より / 手状来ル

**Wednesday 5(309-56)**

晴雨 / 工場行 / 此日工場の大半破裂ス[120] / 笹瀬元明先生より手紙 / 受ル

**Thursday 6(310-55)**

曇晴 / 工場行 / 笹瀬君へ返書出ス / 木原より手紙来ル

**Friday 7(311-54)**

晴 / 此日〈朝〉笹瀬氏より手状受取 / 朝十一時ブラツクバルン出立　夕 / 五時半龍動着　伊賀氏 / の寓居[121]ニ一宿ス

**Saturday 8(312-53)** ***Cambridge Michaelmas Term / divides at noon.***

晴 / 此日笹瀬氏 亀井氏ヲ問フ / ハム氏の居宅ニ宿ス

## 46th Week

**Monday 10(314-51)**

120)この「此日工場の大半破裂」についての詳細は不明である。この「工場」とは、ビリツグスの「ローズ・ヒルズ工場」（石川安次郎前掲書『弧山の片影』128 頁）であろうか。

121)1877 年 10 月 2 日時点で、伊賀陽太郎は 22 South Hill Park Gardens, Hampstead Heath に、さらに同年 12 月 11 日には、67 Chandos Street に住んでいた（井上琢智前掲論文「イギリス留学生伊賀陽太郎宛書簡に見る日英交流（2）—イギリス人家庭教師ハムを中心に—」22, 24 頁）。

晴 / 杉浦ヲ訪フ、サンデー [Sunday] の夜 / 笹瀬氏ヲ訪フ

**Tuesday 11(315-50)** ***Half-Quarter Day.***

曇 / 笹瀬氏 南氏 熊谷 伊賀氏 / ヲ訪フ / 此日十月 十一月分の費金 / 廿八磅ヲ笹瀬氏より / 受取

**Wednesday 12(316-49)**

晴 / 朝十一時龍動発、夕 五時半 / ブラツクバルン着

**Thursday 13(317-48)**

晴 / 工場行 / 木原 笹瀬 カメ井へ / 状出ス

**Friday 14(318-47)**

晴朝 / 工場行 / 午後 / 在宅書用

**Saturday 15(319-46)**

晴 / 工場行

## 47th Week

**Monday 17(321-44)**

雨 / 工場行 / 笹瀬氏書状報告書 / 差出ス

**Tuesday 18(322-43)**

雨 / 工場行

**Wednesday 19(323-42)**

曇 雨 工場行 / 此日亀井并ニ着状 / ヲ受取ル / エツチング屋へ状ヤル

**Thursday 20(324-41)**

雨 雪 風 / 工場行 / 此日書状報告書ヲ笹瀬へ / 送ス　カメ井へ状ヤル / 笹瀬より状受取

**Friday 21(325-40)**

雨 工場行 / 朝の局 / acclington[*sic.*], / Haward & Bullough[*sic.*] / from work / 笹瀬氏へ策書ヲ出ス / へ行キ器械の積書ヲ欲シタリ

**Saturday 22(326-39)**

雨 雪 極冷 / 今日ハ工場欠席 / 亀井へ書状出ス

## 48th Week

**Monday 24(328-37)**

晴 / 工場行 / ~~笹瀬氏手状報告~~ヲ出ス / 宿状ヲ出ス

**Tuesday 25(329-36)**

雨 / 工場行 / 朝ウイトンミル[122)]へ行ク（フラツバルン府知事分）/ 午カメ井より新聞状 / うけとる

**Wednesday 26(330-35)**

雨 雪 / 工場行 / 状カメ井・イガ氏へ出ス

**Thursday 27(331-34)**

晴 雨 / 工場行 / カメ井より状来ル

**Friday 28(332-33)**

晴 / 工場行 / カメ井より新聞　ハムより受取 / カメ井へ手状出ス

**Saturday 29(333-32)**

晴 / 工場行

## DECEMBER,1879

## 49th Week

**Monday 1(335-30)**

晴 / 工場行 / 伊賀より手状 / 落手

**Tuesday 2(336-29)**

曇 雪 / 工場行

**Wednesday 3(337-28)**

晴 / 工場行

**Thursday 4(338-27)**

晴 / 工場行 / 笹瀬へ手状出ス

**Friday 5(339-26)**

大雪 / 工場行 / カメ井へ状出ス

122)このウイトンミルとは、ブラックバーン市の地名であろう。

**Saturday 6(340-25)**

晴 / 工場行

## 50th Week

**Monday 8(342-23)**

晴 / 工場行 / カメ井より状新聞受取

**Tuesday 9(343-22)**

晴 / 工場行 / ■■受取

**Wednesday 10(344-21)**

晴 雨 / 工場行 / 夜劇場行 / 笹瀬氏へ手状出ス

**Thursday 11(345-20)**

大霧 / 工場行

**Friday 12(346-19)**

冷霧 / 工場行 / カメ井より新聞■■ / カメ井氏へ状出ス

**Saturday 13(347-18)**

晴 / 工場行 / 午後ハムト■■へ / 歩行ス

## 51st Week

**Monday 15(349-16)**

曇 / 工場行

**Tuesday 16(350-15)**

曇 / 工場行 / ■■■■■

**Wednesday 17(351-14)** ***Oxford Michaelmas Term end. / Ember Week.***

曇 / 工場行 / 此日笹瀬より書状到来 / 亀井君へ■■ノ為相 / 拶状ケ■■

**Thursday 18(352-13)**

曇 / 工場行

**Friday 19(353-12)**

曇 / 工場行 / 亀井より書状并ニ新聞落手ス / ■■■■

**Saturday 20(354-11)** ***Michaelmas Law Sittings end.***

曇 / 工場行 / 此■■■■■■■■■■■ / 此日四週見分ノ宿払 / 五拾二志[シリング]九片[ペンス]ヲ払フ

## 52nd Week

**Monday 22(356-9)**

晴 / 工場行 / ミスメープルマストル[123] 浅埜[124]二人、ロス[125]、木原 / 亀井、ハム、伊賀、杉浦へ / 状并ニ品物贈ル

**Tuesday 23(357-8)**

晴 / 工場行 / 此■痛ニテ困シム / 杉浦 伊賀より状来ル / 笹瀬より金十二月分 / 受取ル / 同君へ状出ス

**Wednesday 24(358-7)**

曇 / 此日在宅 / 日本江書状出ス / 書留メニテ

**Thursday 25(359-6)** ***Christmas Day.***

晴 / 在宅

**Friday 26(360-5)** ***S. Stephen. Bank Holiday.***

晴 / 工場行 / 新聞来ル

**Saturday 27(361-4)**

曇 / 工場行 / カメ井 笹瀬へ状 報告出ス / 日本人甚五郎[126]ニ逢フ

## 53nd Week

**Monday 29(363-2)**

曇 / 工場行

**Tuesday 30(354-1)**

大雨風 / 工場行 / 此日亀井君より状来ル / 十一月廿二日出ノ着状ヲ / 受

123)このミスメープルマストルについては、不明である。
124)この浅埜については、不明である。
125)このロスについては、不明である。
126)この甚五郎については、不明である。

取ル

**Wednesday 31(365)**

大雨風 / 工場行 / 此日バールム[127]より算用状来ル / ハムの三女[128]へカアド[129]ヤル /

大尾

| | | |
|---|---|---|
| November 26th Winter thing | £ | 3. 2. 9 |
| November 29th Winer thing | £ | 2. 5.00 |
| | £ S | 2.10.00 |
| | | 7.17. 9 |

MEMORANDA FOR 1880.

| | |
|---|---|
| Sprey[*sic.*] Sept[ember] 8th | 1.7 |
| Sprey[*sic.*] Oct[ober] 3rd | .2 |
| Sprey[*sic.*] Oct[ober] 22 0nd | .10 |
| Sprey[*sic.*] Oct[ober] 22nd | .08.6 |
| Sprey[*sic.*] Nov[embe]$^{r.}$ 21st | .05. |
| Sprey[*sic.*] Dec[embe]$^{r.}$ 5th | .06.6 |
| | 2.10.0[130] |

The above is the draw- / back of treasury.

---

10.11 ; 12.1 ; 2.3 ; 4.5

127)このバールムについては、不明である。

128)現在判明している限り、ハムの子どもには、M. Edith（女），L. Marcus（男），Sydney（男），James，Gorge（男），Emmy（女），Gerti（女）がいるが、これがすべてあるとすると三女は Gerti (Gertrude の愛称）ということになろう（井上琢智「イギリス留学生伊賀陽太郎宛書簡に見る日英交流（1）―イギリス人家庭教師ハムを中心に―」『経済学論究』［関西学院大学経済学部］第 61 巻第 3 号（2008 年 2 月、5 頁）。

129)このカアドとは、トランプ・カードのことであろう。

130)この計算書の表記について誤記がある可能性がある。とすれば、上から① 1 ポンド 7 シリング、② 2 シリング、③ 1 シリング、④ 8 シリング 6 ペンス、⑤ 5 シリング、⑥ 6 シリング 6 ペンスであるとすると、書かれている合計 2 ポンド 10 シリングとなる。

---

From Jan[uary] to Oct[ober], 1879

| | |
|---|---|
| 5g Natural gratification | 5 11 |
| 5g Artificial gratification | 2 |
| 5g Losidrum gratification | 3 |
| | 56 |

Average once / every six or five / days

For ever for ever[131)]

131)この日記帳以下の 6 頁分の ‘Lessons for Sundays and Holydays,1879’（この日記帳の本文には日曜日と休日の欄は省略しているが、それを補足するためにこの欄が挿入されている）と月毎の ‘CASH ACCOUNT’ があり、主として後者に支出の書入れがあるが、今回のこの翻刻では省略する。

【謝辞】

この資料中英語の翻刻には、Ms. Olivia Kennedy 氏に、日本語の翻刻には井戸田史子氏の多大なるご協力を得た。記して謝辞を表します。